

子育てのページ

文化生活部

kosodate@kumanichi.co.jp

TEL:096-361-3020 FAX:096-361-3290

「産後ケア」で悩み軽く

助産院「熊本母と子の相談室」で、管理栄養士（左手前）から離乳食の進め方について話を聞く母親ら＝熊本市中央区



出産後の母親の不安や悩みを軽くしたい。「産後ケア」を専門にした助産院が、熊本市で相次ぎ開業した。育児の相談に対応したり、母乳指導をしたりして母親たちを支援している。玉東町が産後ケアへの助成制度をスタートさせるなど、支援に乗り出す自治体も出てきた。

専門助産院 熊本市に相次ぎ開業

育児の相談、母乳指導…

利用料課題 玉東町が助成開始

「おっぱいにしこりがあるって悩んでいたけど、マッサージしてもらったらなくなり、授乳もスムーズにできるようになった」と合志市の看護師、大塚枝里加さん(29)。熊本市中央区島崎にある助産院「熊本母と子の相談室」に、8カ月の長女とともに毎週通い、マッサージを受けている。5月中旬にあった離乳食教室にも参加。「赤ちゃん連れの外出は、授乳場所の確保が難しく大変。ここなら気軽に相談もできるし、ほかのママとも話せて楽しい」

相談室は昨年9月、助産師の下園和子さん(63)が開業した。病院に勤務した経験のある下園さんは「母親が退院後、産後うつになるのではと心配になることがあった。妊娠から出産後の育児まで、途切れない支援をしたい」と話す。相談室では母乳指導に力を入れている。「母乳が足りないのではない」「うまく飲んでもくれない」などの悩みが多く、下園さんは「おっぱいのトラブルから、うつに発展することもある。母乳育児がスムーズにいけば母親も自信を持てる」と言う。

同市西区横手の由来助産院は昨年7月、助産師の甲斐由香さん(37)が開業。母乳や沐浴などの指導のほか、産後の疲れを癒やしたい」という母親のため、宿泊でのケアにも応じている。甲斐さんは病院に勤務していたとき、一度も健診を受けないままの飛び込み出産などを扱ってきたという。「病院では、産後ケアに限界があると感じていた。地域で、出産後の母親たちを支えていきたい」と話す。

産後ケアの課題は利用料だ。母と子の相談室の場合、乳房管理と在室3時間で5千円、由来助産院の食事付き産後ケアは、日帰り1万2千円、1泊2万5千円となっている。乳房管理だけなら両院とも3千円。玉東町は5月、宿泊もできる由来助産院の産後ケア

を利用する人に、費用の4分の3を助成する制度を県内で初めてスタートさせた。訪問型ケア(2時間8千円)では自己負担は2千円。市民税非課税世帯は千円、生活保護世帯は自己負担はゼロとなる。「核家族が増え、サポートがない人も多い。産後ケアを受けやすくすることで、子育てしやすい環境を整えたい」と町保健介護課。

鹿児島市は宿泊型の産後ケアに半額助成。利用者の負担額は1日当たり9258円だ。また、宮崎市は昨年10月から産後ほっとデイ事業を開始。新生児訪問で母親にうつの傾向があるなどケアが必要な場合、助産院に来てもらっているという。利用者の負担額は1回500円に抑えている。

熊本市は、出産後体調不良などで家事や育児が困難と思われる人などにホームヘルパーを派遣する事業をしているが、産後ケアへの助成はない。市子ども支援課は「産後ケアの実施機関が限られており、今のところ助成は難しい。今後、検討していきたい」と話している。

県助産師会は、産後の悩みについて電話相談☎096(325)9432に定めている。月々金曜の午前10時～午後4時まで。乳房管理や沐浴での訪問指導もある。1回3千円(交通費は別途)。(森本修代)